



思いやりの心を育むために

※ 私たちは、思いやりの心を「相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けること」として捉えました。



— 子どもたちの思いやりの心は、育っているのかな? —



子どもたちは、認め合ったり、励まし合ったりする経験が少ないせいか、自分に自信がもてず、意見を言ったり、思いを行動に移したりすることが苦手なようです。

学校では、子どもたちは、「人に優しくしたい」という思いをもっているのですが、実際にどのように行動に移すとよいか分からないようです。



思いやりの心は、みんながよりよく生きるために、ぜひ、子どもたちに身につけてほしい大切なことです。地域の中でも、みんなで育てていきたい。

子どもたちは、多くの人のかかわりの中で、

- 相手の気持ちが分かります。
- 自分のよさ、相手のよさに気付きます。
- 人のために何かをしたいという思いを高めます。

多くの人たちと「かかわる機会」を大切にして、子どもたちの思いやりの心を育みましょう。



学校・家庭・地域へ期待すること

○ 学校へ

かかわる機会を大切にするために

- ・ 友達や保護者、地域の方々とかかわる体験活動や学校行事などの教育活動を計画的に実施していきましょう。
- ・ 地域の貴重な人材や素材を有効に活用しましょう。
- ・ 授業公開を実施し、学校の取組を家庭・地域に発信していきましょう。

○ 家庭・地域の皆様へ

- ・ 家庭や地域の中で、「おはようございます」「行ってきます」「ありがとう」「ただいま」などのあいさつが行き交うように心がけましょう。
- ・ 子どもたちと学校の様子などを話し合う機会を大切にしましょう。

子どもが一步を踏み出せるように

- ・ 道徳の時間では、子どもたちが自分の考えや行動を振り返る機会をもち、子どもたちを温かく認めていきましょう。

- ・ 学校で行われる授業公開、学校行事などに参加し、学校での子どもたちの様子を知り、子どもたちのよいところを褒めるようにしましょう。
- ・ 地域の行事に子どもたちを参加させ、地域ぐるみで子どもたちを育てる意識をもちましょう。

愛知県教育委員会では、本県の学校における道徳教育をより効果的に推進するとともに、道徳教育の充実・振興に向けて県民全体で取り組む機運を醸成するために、愛知県道徳教育推進会議を開催しています。

